



◆2018年(平成30年)4月20日発行 ◆Vol.9

故きを温ねて、新しきを知る 帯広葵学園のあしあと

その大きな原因は、学園内で最も古い歴史を持つ葵幼稚園の廃園問題のじこりでした。理事会は狭い土地に建つ古い園舎の改築計画も立てられず、また、そのことが要因となってか園児は集まらませんでした。※平成5年の園児数(定員260名)は110名です。

そこで理事会は、葵幼稚園の新年度の園児募集を中止し、廃園の決断をしますが、一部教職員と保護者の理解を得ることができずにいました。幾度となく会議や集会を持ちますが、結果は堂々巡りの繰り返しでした。

このような状況の中で新しく発足した理事会は、一端この問

は3つの幼稚園を経営していましたが、学園全体の雰囲気はありませんいいものではありませんでした。

学校法人帯広葵学園  
理事長 上野敏郎

子どもに必要なことは  
すべて  
**児童憲章**  
の中にあります

題を掲上げにします。ただし、園児数が100名を切る状況が続いた場合は新たな判断をするとする条件付きでした。また、学園内に明るい話題を提供するために新理事會は、赤い汽車バスを購入しました。このバスを通園バスに使いながら、子どもたちが喜び姿で学園としての次の活路を見出そうとしたのでした。

しかし、この策も起死回生とはいきませんでした。葵幼稚園の園児数は、平成4年の164名が5年には110名、6年は97名、7年は100名、8年が101名、9年は91名と下限線を辿る所以でした。



All the children are to be assured of entering school and proper educational facilities are to be provided.

